

子どもの 見ているつもり？ 聞いているつもり？ 声を聴く

8

楽しい食事の工夫

愛知県碧南市
へきなんこども園園長
ユリア

おなかすいた～!!

皆さんの園内で、こんな子どもの言葉を聞きますか？先日研修で私の園を訪れた方が、「久しぶりに『おなかすいた～!!』と言っている子どもの声を聞いた」とおっしゃっていました。

とても大事にしたい感覚だと思います。「食べる時間になったから食べる」「タイムスケジュールに沿って食事をする」という日常を過ごしていると、それぞれが感じていることより、何かに合わせて行動することが日常になっていくように思います。

子ども一人ひとりを大切にすることは、それぞれの感じることを大事にすることです。私の園では節度はありますが、幼児の場合はそれぞれのタイミングで食事をしていきます。全員一緒ではないけど、友だちと楽しく食事をしているよ

うです。

ところで、30年以上前から、私の園では、園での昼食を「給食」とは言わず、「食事」と言っています。それは、給食は、もともと配給される食事といった意味だと考えると違和感を感じるので……。そして、この連載の第2回目（2022年6月号）でも述べましたが、陶器の食器をずっと使っています。子どもたちがそれぞれの量を、それぞれのペースでゆったりといただけるようにしています。

箸がきれいに持てない子が多くない？

場合によっては、年長児でも指先に力が入りにくかったり、手首の動かし方が難しかったりする子がいます。それぞれに事情はありますが、そうした子が増えているようです。先日、研修のために伺った園でもそうした状況がありました。

鉛筆やペンを持つ時も同じ姿があります。そこで、乳児が指先を使って遊ぶための玩具を幼児クラスにも備えることにしました。

育ち（発達）が少しとどまっているようであれば、ちょっと戻って遊びの中でたくさん経験や体験ができるように環境を整える必要があります。そして、指先や手首などの動かし方を必要としている子は、だいたいは発達に必要な遊びを選び、楽しめるようで、熱心に遊んでいます。時には苦手で選ばない場合は、保育者が誘ったり促したりしています。

頑固な偏食の子ども

どこの園にもいるのではないかと思います。白いご飯しか食べない、自分の中で決めたものしか食べない、といった子どもがいます。

なぜそうした食事になっているのか、理由はさまざま、それを聴いて認めながら、食べられるような働きかけを、その子その子に応じてしてい

るところです。

最近の園内研修の中で講師の先生に、働きかけの中に「五感で感じて、その食べ物を知っていく」という視点を示唆していただきました。具体的には、フォークで刺してその感覚を確かめてみるといったようなことだそうです。

視覚=見た目とか、臭覚=香りといったことはわかっていましたが、触覚もありですか……。

「五感を使って」ですね!!

1歳児の足置き台

1歳児が食事をする時に使う椅子とテーブルは、その年齢用はかなり高さの低いものを用意しています。しかし、4月・5月の時期はまだ月齢が低いので、それでも足が浮いてしまう（プラブラしてしまう）場合があります。

そこで担任が、高さ3～4cmの台を作って置いてみました。初めは、足が落ち着かない様子でしたが、そのうちに自らグッと踏みしめて食事をするようになりました。自然と姿勢保持や、しっかり噛むことの助けになっているようです。

乳児のお昼寝

食事が終わったら、乳児さんたちも基本的に自分で、お布団のところに行って寝ていきます。

「えっ？トントンしなくても寝てしまうの？」

そうなのです。初めにそうした姿を見た時には「え～、寝ちゃったよ。驚いた～」という感じでした。お腹が満たされて、身体が温まり眠くなる。考えてみれば、自然の流れですね。

パジャマには着替えていません。お家で昼寝する時も、着替えないことが多いですね。

結果として、トントンすることはほとんど必要がなくなりました。

しかし、トントンしてはいけないということではありません。もしかすると、寝入る時に刺激が

必要な場合もある時があるようなのです。

前回（10月号）、特徴のある子どもたちとの関わり方について述べました。また乳児の食事の時の関わり方についても述べましたが（6月号）、もとにあることは同じことだと思います。

それは、「みんな一緒（同じ）でしょ」。何が？「一人ひとりが大切な存在であるということ」「子どもの人権を守るということ」です。そしてこのことは、大人同士でも同じことですよ。



①ちょっと戻って遊びの中での経験（幼児クラス）
②乳児用の手作りおもちゃを幼児の部屋にも備えました
③1歳児の足置き台

*この連載は、和田秀一先生とユリア先生に隔月交替でご執筆いただきます。